

文化

写真のチカラ



はぎわら・よしひろ 61年、群馬 10年、東川賞特別作家賞。写真集に
 昇生まれ。日大芸術学部写真学科卒。『巨骸残采・忘れられた日本の廃墟』
 毎日新聞社出版写真部を経てフリー 「SNOWY」に「ぼん木造駅舎
 の旅100選」がある。今年秋「S
 NOWY II」(冬青社)を刊行予定。
 01年、さがみはら写真新人奨励賞、

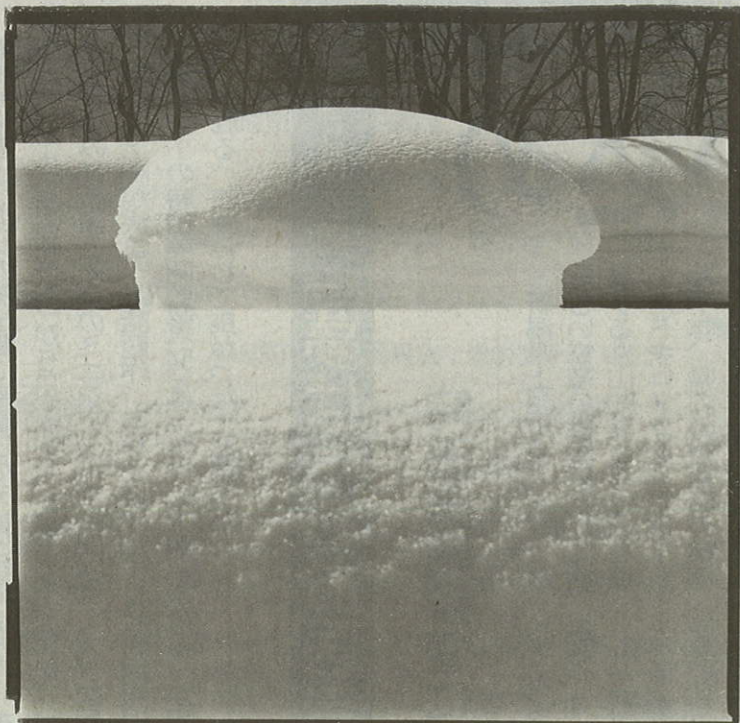
あれは1990年の冬の事だっ
 た。新たな写真のテーマを探しに
 下北半島を旅していた時、地吹雪
 に遭い、目の前の廃工場に逃げ込ん
 だ。丸窓が印象的な工場は、だい
 ぶ前から使われていないらしく、
 窓ガラスはなくなり、工場内にも
 雪が容赦なく入り込んでいた。壁
 にまでも雪がこびりつき、まるで
 巨大な冷凍庫の様だった。どこか
 らか種子が飛んできたのだろうか
 か、ひび割れた床の僅かな土に若
 木が生えていた。樹氷の様に雪に
 覆われた若木は美しく、夢中でシ
 ャッターを切っていた。後日調べ
 てみると、そこは戦時中に砂鉄を
 製錬していた工場だった。

この時の撮影が、忘れかけてい
 た冬の夕張の炭鉱を思い出させ
 た。石炭で真っ黒くなった炭鉱マ
 ンの顔とは対照的に、炭鉱の施設
 や炭住は白い雪に覆われていた。
 最初に筑豊や常磐の炭鉱を撮って
 いたらきつと違っただろうが、初
 めて訪れた炭鉱が夕張だったた
 め、雪の光景が炭鉱のイメージと
 して私の中に定着したのだろう。
 そして、その冬から「SNOWY」
 シリーズの撮影が始まった。

閉山から年月が経つと、かつて
 の施設の跡は草木が生い茂り自然
 に還っていく。冬場、道なき道を
 ひたすら歩き撮影場所にたどり着
 くと、美しい銀世界の中に繁木の
 痕跡が佇んでいる。自然と時間
 がつくりだす造形は、砂糖菓子の
 様であったり、時には得体のしれ
 ない生き物の様にも見える。そん
 な不思議な光景に幾度となく驚か
 され、しばらく撮影するのを忘れ
 てしまうこともある。

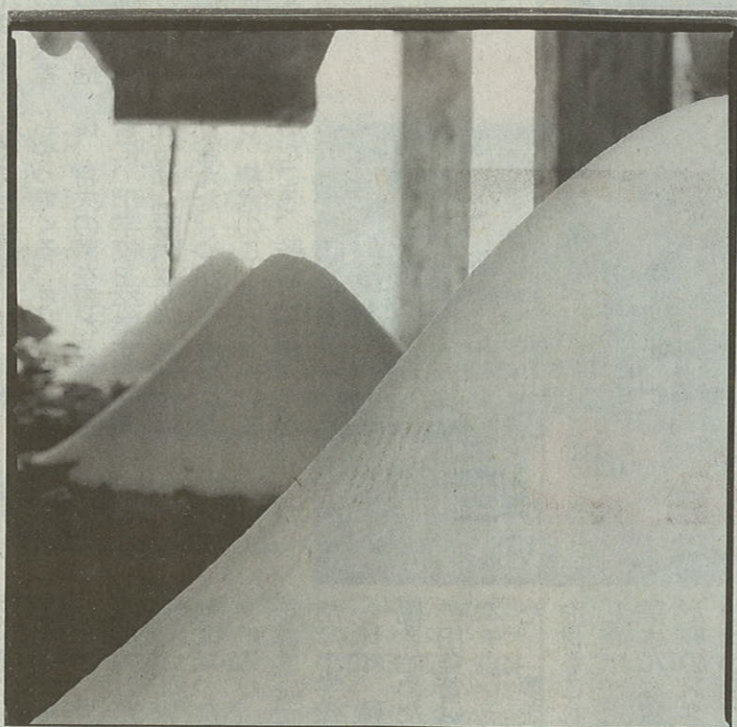
冬場の天気は刻々と変化する。
 夜間、長時間露光をしていると、
 晴れて月が輝いていたかと思う
 と、急に曇ったり激しく雪が降っ

「SNOWY」／萩原義弘 自然と時間がつくる造形



たりする。1時間ぐらいの間に目
 まぐるしく変わる気象条件のもと
 で目の光景がモノクロフィルム
 に露光され、一枚の作品となる。
 シカやフクロウの鳴き声を聞きな
 がら被写体と対峙していると、施
 設が現役だった頃や、主のいな
 くなった炭住が賑やかだった頃の様
 子が脳裏に浮かんでくる。
 私は炭鉱や鉱山跡を廃墟だとは
 思っていない。建物は解体された
 り朽ち果ててしまっても、そこ
 は人々の存在が今も残っていると
 思う。人間の記憶は次第に薄れ、
 やがて失われてしまう。しかし、
 雪をモチーフに美しく撮影し作品
 化することで、僅かでもその記憶
 や存在を残すことができるのでは
 ないだろうか。そして、日本の発
 展に貢献してきた産業の証とし
 て後世に伝えることができると思
 っている。

春の到来と共に消え去る造形。
 また次の冬が来るのが楽しみだ。



① 夕張炭鉱大新坑(夕張市)
 ② 本岐炭鉱(釧路管内白糠町)
 ③ 「SNOWY1」 幌内炭鉱(三笠市)

一つの空間に女性像が5
 体。そのうち2体は上半身
 の像で、物憂げでうつろな
 目をしている。残る3体の
 全身像が問題作。背筋を伸
 ばしたり、胸を張ったり、
 足を広げて体をくの字に曲
 げたり、とてもポシティブ
 な印象でフォルムも美し
 い。ただし3体ともに目隠
 しをされ、大切な目を奪わ
 れているのだ。写真II。
 武蔵未知は道展会員の彫
 刻家。長く木彫の抽象作品
 をつくり続けてきたが、今
 回は一転、FRP(繊維強
 化プラスチック)素材の具
 象作品を発表した。新作は
 かり5体の女性からは、素
 材のチカラをはるかに上回
 る作家の強固な創作意欲が
 にじみ出ている。

展覧会 武蔵未知展

ワールドカップのテレビ中
 継を見て、鮮明な画像に驚い
 た。スロー映像はコンピュー
 ターグラフィックス(CG)
 のようで、選手の毛穴まで見
 えそうだ。普段テレビを見な
 いこともあるが、映像技術の
 進化に感心させられる。あの
 技術を顕微鏡に組み込み、微
 生物を観察できないものか。

微生物を最初に観察したの
 は、オランダのレーウエンフ
 ックとされている。17世紀の
 後半のことだ。当時はレンズ
 から手作りしたというから感
 服する。現在は高性能のレン
 スが市販され、コントラスト
 を高める技術も組み合わせれ
 ば、ほとんど透明な微生物で
 も容易に観察することができ
 る。とはいえ、学生に細菌を
 見せると、あまりに地味でガ
 ッカリされることが多い。
 一般的な顕微鏡は光学顕微
 鏡と呼ばれ、たとえ何百万円
 するものを使っても、細菌ほ
 ど小

魚眼図

顕微鏡も